

まるりん通信



令和3年度 研修センター自主事業のお知らせ

研修センターでは今年も様々な事業を企画しています。

○自然文化体験セミナー

- ・まるごと屋久島研修講座（4月）
- ・かぞく旅inやくしまタイム（5月）
- ・海辺deデイキャンプ（7月）

○ふるさとセミナー

- ・星空観察会（年3回予定）
- ・屋久島子どもエコ隊（年3回予定）

○人材養成事業

- ・教員向け自然体験活動研修会（8月）
- ・インタープリタートレーニング講座（12月）など…



9月セミナー



子どもエコ隊



星空観察会



指導者養成講座

申し込みは、実施の約1か月前から受け付けます。また、内容や日程は予告なく変更になる場合があります。イベントの詳細については、ホームページやまるりん通信などで随時告知しますので、ご確認の上お申し込みください。

お問い合わせ先 研修センター TEL：46-2900

「苔玉」の販売始めました！

文化村センターでは、平野地区にあります屋久島草思園で作られている「苔玉」の販売を開始しました。コケの種類はハイゴケ、上についている植物はトキワシノブ、オオタニワタリ、ナンテン、ドラセナのうちの1種類です。育て方は難しくありませんのでこの機会に育ててみませんか。



育ててみてね！

お問い合わせ先 村センター TEL：42-2900

●「如月の柳絮展」開催●

文化村センターの交流ホールにおいて「屋久島和紙」研究会・漉場工房が主催の第15回「如月の柳絮展」を開催しています。

屋久島で作られた和紙の表面に様々なものが表現されています。

入場料は無料で令和3年3月18日までの開催となっていますので、ぜひこの機会にお越しください。



お問い合わせ先 村センター TEL：42-2900

休館日	村センター	3/15(月)、3/22(月)、3/29(月)、4/5(月)、4/12(月)、4/19(月)、4/26(月)
	研修センター	3/15(月)、3/22(月)、3/29(月)、4/5(月)、4/12(月)、4/19(月)、4/26(月)



『冬の贈り物』

インストラクター中村（かんちゃん）

強い北風で海が荒れることの多いこの季節。天気も悪く、船便などもしばしば欠航になってしまうのは困りものですが、海岸では海を渡り、はるか彼方から流れてきたものとの出会いが楽しめる季節でもあります。時には遠く海の向こうからやってきたような木の実や、海深くに棲む生きものたちとの思いがけない出会いもあり、時化の翌日のまっさらな海岸ではついつい心も躍ってしまいます。

その中で、丸い形もかわいらしく、つやつやの貝殻が特に目につき、ついつい探してしまうのが「タカラガイ」の仲間。タカラガイはあたたかい海を中心に生息している巻貝の仲間で、陶磁器のような光沢のある質感をしており、先史時代から宝飾品や貨幣として用いられてきました。世界に230種ほどが知られていて、なかにはこの島の名前がついた「ヤクシマダカラ」というタカラガイがあります。

とはいっても屋久島でしか見られないわけではなく、南日本から西太平洋～インド洋に広く分布している種類です。江戸時代末期に編纂された貝の図鑑、『目八譜』には既にその名前がみられており、当時は「屋久島」という土地が、南方のはるか彼方の土地のイメージがあり、南方からもたらされたものには「屋久島」の名前がつくことがよくあったようです。

海を越え彼方からやってきたものに対して、いま、ここではないどこかについてあれこれと思いを巡らせることは、なんだかわくわくするような気持ちになりませんか？

さて、浜辺に横たわるこの貝がらは果たしていつ、どこから来たのでしょうか？



財団活動報告

○屋久島ガイドセミナー 1/28(木)～29(金)

エコツーリズム推進の一環として、「屋久島ガイドセミナー」を実施しました。

屋久島で活躍する多くのエコツアーガイドの方々に参加いただきました。



○今日から昆虫と暮らそう！冬のクワガタ探し 2/14(日)

午前にはインストラクターから「屋久島の昆虫学」を学び、午後からは7000年の森での昆虫採集など、盛りだくさんな1日となりました。



屋久島を想う

研修課長 福園 和幸

(2月号からの続き。)

自然休養林のヤクスギランドや白谷雲水峡は、歩きやすいように整備されているので安全ですが、昔々生活のために人が歩くことによってできた道を歩くときは、注意が必要です。というのも、私はフィールド調査で黒味岳登山について行ったのですが、きちんと心と体の準備をしないとたいへん痛い目にあいます。結論から言えば、「山」を舐めるな、侮るな、甘く見るなです。途中「頂上に行きたい」気持ちと「早く帰りたい」気持ちが交錯し、自分が試されているようで、ある意味「修行」でした。登山をしながら自問自答し続け、なんとか登頂しました。そこには登頂した者にしか味わえないものが確かにありました。しかし、それも束の間でした。今来た過酷な道を今度は降りないといけないう空虚感が襲ってきました。下山の方が、ケガをしやすいそうで、無事に帰り着くまでが「登山」だとも言われます。上りは山頂まで行くという目標がありますが、下山はただ帰るだけです。途中気が遠くなりそうにもなり、腰は痛い、ひざがガクガク、なんとか無事に下山しました。そこで初めて自分にしかわからない、味わえない永遠に語れる「達成感」を山の神様からもらいました。

あれから数ヶ月。そろそろ、心と体の準備を始めます。